

夏祭りボランティア参加報告



（写真左）長島愛生園の花火大会
（写真右）邑久光明園の花火大会



7月25日（木）と8月1日（木）、長島愛生園と邑久光明園で夏祭りが開かれました。今回は、養成講座を終えたばかりの12期生が多数、ボランティアに参加してくれました。このうち、松本さんと森さんに感想を寄せていただきました。

7月25日の愛生園の夏祭りに、歴史館ボランティアとして5名で参加しました。初めてのメンバーが多かったのですが、経験者の正田さんから説明方法を教えて頂きました。流れるように話されるので、あんなに詳しく説明できるのかと不安になりました。最後に「何分ぐらいで見学されますか」とお尋ねしてからご案内することなど教えて頂きました。さらに田村さんの歴史回廊の説明に同行しました。奈良県からの20名ぐらゐの団体でしたが、とても細かく分かりやすい説明で勉強になりました。祭りが近づくにつれて、歴史館を訪れる人が増えてきました。初めてのお客様さんは、3人の親子連れでした。DVDの視聴後、ハンセン病の説明コーナーにご案内しました。ライ菌のこと、ハンセン病はとも感染しにくい病気であること、戦後プロミンという特効薬が普及し、完治できる病気になったことなど知っていることを思わず早口で説明してしまいました。何組か説明するうちに余裕が少し出来ました。外で、祭りに来

愛生園夏祭りで歴史館ボランティア



歴史館ボランティアで活躍する松本さん

られた方に歴史館見学の呼びかけもしました。たくさんの方が呼びかけに応じて下さいました。閉館後に見た洋上の花火は最高でした。これからも歴史館ボランティアを通して、ハンセン病に対する偏見・差別がなぜ起こったのかをできるだけ多くの人に伝えていきたいと思っています。

（12期生 松本粹）

第29号

ゆい・結・YUI

ハンセンボランティア ニュース

2013年10月6日 発行
ゆいの会事務局
岡山市北区弓之町1-17 五藤ビル4階
山本勝敏法律事務所内
電話 (086) 234-1711
FAX (086) 234-8696
編集 則武 透



ゆいの会
ハンセンボランティア

邑久光明園の夏祭り

8月1日当日、私は邑久駅から送迎してもらい、13時ごろ、光明園に到着しました。その後、神戸大学学生サークルの人達とゆいの会のボランティア計15名程で580個のおにぎりを作り、私はひたすら500枚以上、たくあんを刻みました。仕事が終わった後、ふわふわのおにぎりをみんなで食べた時は、格別においしい味がしました。夕方、夏祭りが始まると、ゆいの会で準備した綿菓子も大人気で、子供達が列を作って並ぶ程盛況でした。あつという間に、夢の様な楽しい時間が過ぎていった感じがしました。

控え室では、愛生園の元職員の方達から当時の園の様子や入所者の人達の状況等を聞かせていただくことができ、大変勉強になり、有意義な時間を過ごすことができました。また、私への助言もたくさんいただき、大変感謝しています。今回、光明園での夏祭りに参加させていただいたことは、仕事に行き詰まり、大変悩んでいた私にとって、大きな転機となりました。

福引きは残念ながら5等のティッ



毎年恒例のセルフ綿菓子



（12期生 森笑里）

ハンセンボランティアニュース 結・ゆい・Yui 第29号

— 目 次 —

1. 夏祭りボランティア参加報告 1～2
2. ボランティア活動報告 3～4
 - ① 畑耕し隊
 - ② 里帰り付き添いボランティア
 - ③ ふれあいボランティア
3. 第12回ハンセンボランティア養成講座 5

— 第12期生19名が誕生 —
4. ハンセンサポートセンター10周年企画報告 6
5. 今月のこの人 7

この人…12期生 三宅一志
聴き手…6期生 疋田邦男
6. 田村さんの「歴史館だより」 8

今後の企画案内

ボランティア実践報告



ゆいの会では、様々な活動が行われています。そのうちのいくつかをご紹介します。

畑耕し隊からの報告

昨年夏ごろ、「ゆいの会」運営委員会において『入所されている方と何か新たなふれあい活動はできないだろうか』という意見が出されました。いろいろ話し合った結果、愛生園の了解をいただいた上、自治会中尾会長さんから役員さんが畑づくりをするのを支援するという形で、一坪住宅あとの空き地を利用し、畑づくりをすることになりました。

しかし、すぐには、畑づくりに取りかかれなかったので、昨春秋、自治会の方と協力して「芋煮会」を愛生園内の公園で初めて行い、20名近く参加していただきました。

今年4月ごろから自治会の方やゆいの会数人も協力し、まずは畑づくりを



畑の様子

する前に、愛生園には鹿が出没するので、柵作りと鍬とか農具を入れる古いプレハブの倉庫も畑の横に組立てました。柵作りと倉庫の組み立てでは、ボランティアの青江さんに大変お世話になりました。

その後、月に数回、土づくりをして

キュウリ、茄子、トマト、ゴーヤ、スイカ、ジャガイモ、さつまいも、大豆などを植えました。鹿除けの柵をしているので、鹿に野菜を食べられる心配はないのですが、カラスに収穫寸前のスイカを食べられて悔しい思いをしている今日この頃です。

ジャガイモはすでに収穫でき、倉庫に保管しています。秋には、取れた野菜など利用してまた、収穫祭を企画しようと思っています。畑づくりは生まれて初めての挑戦でしたが、中尾会長をはじめ、自治会の皆さんに畑づくりの指導を受けながら楽しくやっています。畑づくりに興味のある方は、是非、お申し出ください。一緒に汗を流しましょう。

（畑耕し隊世話人 出井敏雅）

里帰り付き添い ボランティア報告

6月12日～14日の3日間、Mさんの里帰りの付き添いボランティアとして参加させていただきました。Mさんは全盲のため、移動や生活面のお手伝いをさせて頂きました。

12日の昼食は県知事と一緒に食べましたが、Mさんが書かれた本を直接知事へ手渡され、ツーショット写真も撮ることができ、非常に喜ばれていました。その後観光に出ましたが、地名から昔父親と遊びに来ていた思い出話などをしてくれました。3日間は観光がメインでしたが、有名な「ゆるキャラ」にも会え、「これで歌が何個か詠める」と喜ばれていました。1日目、2日目とも夜に懇親会があり、Mさんもカラオケを歌うなど楽しく交流されました。歌詞に自信が無いとのこと、耳元で私が歌詞を伝えながらのカラオケでしたが、お上手でした。2日目の夜には露天風呂にも入られ、「温泉は気持ちいい」と喜ばれていました。

この3日間でMさんから直接ハンセン病の歴史やMさんの人生などについて話をきくことができ、貴重な経験をさせていただきました。ハンセン病や人権について考えさせられ、このようなことが二度と繰り返されてはならないと感じ、この思いをまわり伝えて行くことが重要だと思いました。またMさんにとって私が伝える情報が全てであり、私の感性が問われる3日間にもなりました。機会があればぜひまた参加させていただきたいと思います。

（太田将登）

ふれあいボランティア から便り

それは、チューリップの芽が出す頃の「ふれあいボランティア」から始まりました。その日の「ふれあい喫茶室」に、車椅子で河田正志さんが見えなくなりました。

1時間ほど、詩人・永瀬清子、大江満雄、長島詩話会のことなどのお話をされました。私は、今年から愛生誌に「詩人・永瀬清子と長島」を連載していますので、1953年に「黄薔薇」の人達が永瀬清子と一緒に長島に訪問したことを、記憶していますか、と河田正志さんにお聞きしました。すると、「良く覚えている。その後も交流があった」と云いました。その一人に、詩人のなんば・みちこさんがいました。「当時大学生の難波道子（なんば・みちこ）さんは、良く覚えている。綺麗な人だった。その後、年賀状のやり取りをしていたが、目が悪くなつてから、返事を出さなくなった」と云いました。なんばさんは、邑久長島大橋架橋運動の頃、河田さんから来た年賀状の内容について、「二枚の」という題の詩を書き、季刊詩誌「舟」49号（1987年秋）に

投稿しました。その詩の一部は、次のようです。

この詩に出てくる「その人」は、河田さんです。「橋」は邑久長島大橋（人間回復の橋）です。この時、なんばさんは河田さん宛に、掲載された詩誌を送ったのですが、なぜか長島の郵便事情で、河田さんに届きませんでした。そして、この詩「一枚の」が掲載された翌年の1988年5月9日に「橋」は架橋されました。

私は次の「ふれあいボランティア」でこの詩を、河田さんの耳元で朗読しました。それは、河田さんが25年の時を過ぎて、自分のことが書かれた「詩」と会った瞬間でした。

その後、私は、当時訪問した「黄薔薇」の詩人達に会い、現在の河田さんの様子をお伝えしました。

写真の左から、中桐美和子、くにさださきみ、なんば・みちこさんです。

そして、桜が散る頃の「ふれあいボランティア」の時に「声の便り」をお伝えしました。

「河田さん、難波道子です。ほんとに長い間、賀状をいただきありがとうございます。私は、79歳になりました。河田さんが御元氣な様子をお聞きして嬉しいのです。これからもずっとお元氣でお過ごし下さい」

これで、私の時を超えた「ふれあいボランティア」は終わりました。

追記..

なんば・みちこ（難波道子）さんは、「県内を代表する詩人で後進育成にも努めている県文化連盟幹事をされている」ことにより、今年の「三木記念賞」を岡山県から受賞されました。

一枚の

なんば・みちこ

.....
だが あの日 一枚の葉書をもらった

あの日から

わたしは無意識に橋を渡ることができない

川はゆったり流れているが

橋はどっしり架かつてはいるが

川原の草の葉は緑濃い

鳩もゆりかもめも群れてはいるが

わたしの中に

もう一本見えぬ橋

今年 遅れて届いた賀状に

その人は書いていた——年の春 友は

「橋は 橋は」と叫んで

死んで行った

補..

今回に関連した内容は、「詩人・永瀬清子と長島④——「黄薔薇」同人の訪問——」として、「愛生」誌7・8号、9・10号に分割掲載予定です。

（6期生 正田邦男）



第12回ハンセンボランティア養成講座 第12期生 19名が誕生

第12回 ハンセンボランティア養成講座の感想

私が養成講座に参加するきっかけになったのは、「もういいかい」の上映会にてゆいの会の運営委員の方から声をかけて頂いたことでした。そこで、入所者の方との関わりを持つことが出来ればと思い入会することを決めました。

第1日目では、病気の知識や海外でのハンセン病を取り巻く状況のお話から、ハンセン病についてもっと知りたという興味が沸きました。また、知識や入所者の方の思いを伝えていくことの大切さも学ぶことが出来ました。

第2日目では、ボランティアとは何かという原点を振り返ると共に、ゆいの会での活動へのイメージも膨らんで来ました。

第3日目では、介護体験を通して受講生の方との交流を図ることが出来ました。特に印象的だった園内フィールドワークでは、入所者の方を前に生の言葉で語って頂くことで、実際の経

験における思いが強く伝わって来ました。講座終了後は、近藤会長に愛生園を案内して頂きました。

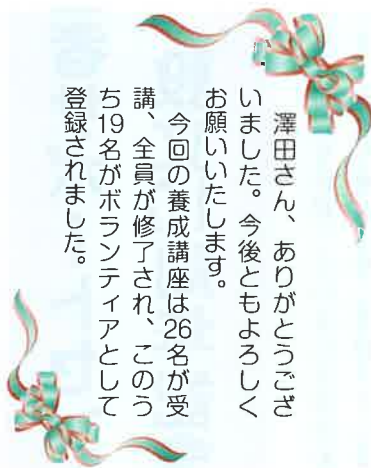
第4日目では、入所者の方から現在の生活についてお聴きしたり、受講生おひとりおひとりから、ボランティアに参加される思いを伺うことができ、私自身に大きな刺激となりました。

今回の養成講座で中身の濃い経験をさせて頂いたので、これからの活動に繋げていきたいと思っています。

（12期生 澤田佑子）

澤田さん、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。

今回の養成講座は26名が受講、全員が修了され、このうち19名がボランティアとして登録されました。



第12回ハンセンボランティア養成講座

テーマ・講師（敬称略）

【講座Ⅰ】 6月2日（日）

- 開会挨拶 ゆいの会会長 近藤 剛
- ①「ハンセン病とは」
講師／光明園 畑野 研太郎
- ②「ハンセン病の歴史と将来構想について」
講師／ゆいの会会長 近藤 剛
- ③「歴史館の果たす役割について」
講師／愛生園歴史館学芸員 田村 朋久

【講座Ⅱ】 6月9日（日）

- ④「ボランティアを始める前に」
講師／関西福祉大学 社会福祉学部 萬代 由希子
- ⑤「ゆいの会のボランティア実践報告」
講師／ゆいの会ボランティア有志

【講座Ⅲ】 6月22日（土）

- ⑥「介護講座」
講師／看護部長 時岡 裕美子
- ⑦「介護実践」（車いす・アイマスク体験）
- ⑧ 園内フィールドワーク
屋会長他自治会役員からご案内

【講座Ⅳ】 6月29日（土）

- ⑨「入所者との交流」
講師／屋会長他自治会役員
- ⑩ ゆいの会オリエンテーション
- ⑪ 講義及び閉会挨拶
邑久光明園 牧野名誉園長より



入所者との交流



ボランティアについての学習

ハンセン病被害者サポートセンター

設立10周年記念講演会の報告

岡山弁護士会のハンセン病被害者サポートセンター設立10周年を記念して、菊池事件の講演会が8月24日、岡山弁護士会館で開かれました。

この日は悪天候にも関わらず、長島愛生園、邑久光明園の自治会長さんを始め、ゆいの会会員、一般市民ら約90人が参加しました。

菊池事件とは、2つの事件（ダイナマイト爆発事件と殺人事件）の総称で、1951年と52年、熊本県北部の山村で発生しました。近所に住むFさん（当時29歳）が犯人とされましたが、ハンセン病に対する差別・偏見から、事件の発覚、取り調べ、裁判に至るまで、Fさんに対して多数の人権侵害が生じました。

例えば、Fさんは逮捕時、必要ないにもかかわらず、警察官の発砲を受けて傷害を負い、その手術の麻酔が覚めない時期に無理やり自白を取られました。また、裁判は一般人には公開されない特別法廷で行われたほか、Fさん

が事実関係を否認しているにもかかわらず、国選弁護人は特に争おうとしませんでした。提出された証拠などは菜箸で挟んで示され、裁判官、検察官、弁護人いずれも審理中に白衣を着て、早く審理を終了することを求めていると言われています。Fさんは満足いく審理を受けられないまま、死刑判決を受け、その後、1962年に死刑執行がなされました。

2001年の熊本地裁における違憲判決を受けた後も、遺族はハンセン病に対する差別・偏見から、再審請求を行うことができていません。

講演会では、まず、神戸学院大学の内田博文教授が「菊池事件の再審請求の必要性と課題」と題して講演し、

「法曹三者および刑事法学も『無らい県運動』等で作成、助長、維持されたハンセン病差別・偏見に侵されていた」と指摘。「司法が一方的に犯した法令違反、誤判があるとすれば、それを是正する責任は司法の側にあり、検察官に

よる再審請求によって可能である」と訴えました。

次に、菊池事件再審弁護団代表の徳田靖之弁護士が「菊池事件にみる法律家の責任」と題して講演し、「遺族感情にも配慮しつつ、再審請求を求める動きを続けていきたい」と決意を語りました。

会場では、菊池事件の再審請求を求める署名が集められ、多数の参加者が署名を行っていました。

当日ご参加いただいたゆいの会の会員の皆さま、誠にありがとうございました。また、ご参加頂けなかった会員の皆さまの中で、署名にご協力頂ける方は、事務局までお問い合わせください。

（運営委員 古謝愛彦）

ゆいの会ブログ（ときどき更新中...）

当会の活動のほか、ハンセン病問題に関する最新の情報も随時掲載しています。
<http://hansenvolunteer.blog.shinobi.jp/>

☆メーリングリストのご案内☆

皆様の情報交換のために、メーリングリストを設けています。ぜひご参加下さい。

ご参加希望の方は、「ゆいの会ML登録希望」であることを明記し、登録アドレスとお名前、簡単な自己紹介をお書き添えて、下記アドレスにメールをお送りください。

登録はコチラから↓

hvlt-owner@yahoogroups.jp



今月この人 12期生 三宅一志さん

この人：12期生・三宅一志
聴き手：疋田邦男



歴史館ボランティアの12期生三宅一志

Q1:自己紹介をお願いします。

昭和22（1947年）年3月、岡山県児島郡莊内村論田（現玉野市）に生まれる。このちよつとした百姓屋に生を受けたことが、新聞記者として20代後半からハンセン病問題に取り組む契機となる。最初に朝日新聞香川版に125回の連載『ハンセン病の軌跡―大島青松園』を書いたのが36年前で、翌年（1978年）に『差別者のボクに捧げるー』として書籍化をしました。当時

は、ハンセン病問題は、社会からまったくの孤立無援の状態でした。この新聞連載当時、大島青松園の自治会長は神美知宏・全療協会長、その前の会長の曽我野一美さん（故人）も大島青松園出身でしたので、これ以上ない人脈に恵まれて続けていました。

私のハンセン病問題の原点は、〈安井のおばちゃん〉

私の百姓屋の農作業小屋に一人のおばちゃんが住んでいました。新婚早々に夫がハンセン病を病み長島愛生園に入所。おばちゃんは「実家にいる姪二人が嫁に行けなくなる」と、金欠のまま壮絶孤独な生涯を送り、医者にかかる金もなかったため、耳をどんどん悪くし、60代後半で旧国鉄宇野線の列車に轢かれて即死しました。私は25歳ごろ、おばちゃんのことを思い出し、盆、暮れの休みには袋におみやげを入れては農作業小屋を訪ね、余りの切なさで「この病のことは告発するべきだ」と決意しました。

Q2:「ゆいの会」に入られたきっかけを教えてください。

岡山に勤務した50代後半から入会の際は活躍できませんでした、やはり現役でから今年12期生になり、入会しま

した。

Q3: 趣味は？

読書くらいです。朝夕に愛犬チワワと30分ほど散歩を楽しみにしています。

Q4:「ゆいの会」には、さまざまなボランティアがありますが、どのようなボランティアをしようと思っていますか？

私は、歴史館、歴史廻廊での団体への説明役しか個人的には興味がありませんが、それぞれがそれぞれの興味ある分野を手掛けるのいいと思います。

Q5：すでに積極的に歴史館ボランティアしています。その状況について教えて下さい。また体験されてどのようなことを感じましたか？

私は歴史廻廊の「収容所」

私は歴史廻廊の「収容所」で、これから入所者をどんなことが待ち受けていたかを散発的に説明するのでは無意味と思うので、背景に①富国強兵②民族浄化（強制隔離絶対撲滅）③多数を守るためには少数が犠牲になっても仕方がないという社会防衛思想、があったことを強調して説明しています。この3つは、先の戦争でも大多数が反対できなかったことで、人間が大勢になつてしまったことに抗することの難しさを示しているのではないか、ハンセン病の歴史もそれに似ていないかと話しています。

Q6:三宅さんは、「差別の問題」をどう定義していますか？

私は神美知宏会長と大島青松園の浜

辺で語り合つた時、ハツと気付き、以

「差別とは、その問題が一般個人（複数の場合も）の結婚、営業、就職などの利害に関する範疇に入ってきた時に、

彼ら彼女らが初めて示す拒否反応である。」それは、被差別者にとっては、いったい誰が差別者なのか、普段はまるで見えないんですね。これは怖いのです。

私はこれを、「一見平穏な日常が、実は残酷」と考えます。「私は差別者でござい」なんて看板を首からぶら下げて歩いている人などいません。

Q7：最後に、ゆいの会について一言どうぞ。

適当に緩くて、こんなところでもいい
と思います。

— ありがとうございます。ますます
すのこ活躍を期待しております！。

補
..

12期生の三宅一志氏は、最近2013年5月に、寿郎社から福原孝治氏と共著で、『ハンセン病―差別者のボクたちと病み棄てられた人々の記録』を出版されました。紹介文には、『「ハンセン病」という病いと、この国の底にある『公衆衛生』『社会防衛』という名の【難病患者の殲滅思想】がわかる本」とあります。会員の皆様も是非ご一読下さい。特にハンセン病問題との原点の（安井のおばちゃん）のことが詳しく叙述されています。

（聴き手…正田邦男）

田村さんの

「歴史館だより」

いつもお世話になっております。日ごろ、活動にご協力いただき誠にありがとうございます。今年は12期生の方々が積極的に活動してくださっているのも、とても助かっています。至らぬ点もあり、ご迷惑をおかけすることもありますが、末永くお力をおかけできれば嬉しいですが、さて、長島愛生園歴史館では今年度後半に向けて幾つかのイベントを計画しています。

まず11月10日(日) 13:30からママカリフォーラムにおいて笹川記念保健協力財団さんと共催で「ハンセン病問題が紡ぐ世界の色彩」と題した講演会を行います。この会はエチオピアの回復者と長島愛生園入所者をお招きし、モノからみるハンセン病問題をテーマとしています。

次に来年1月11日(土) 13:30から岡山市民会館において神谷美恵子生誕100年の集いを開催します。聖路加国際病院の日野原重明先生と、ご子息である神谷徹氏、順天堂大学の樋野興夫先生をお迎えしての豪華な講演会・演奏会です。また、これに合わせ歴史館では「神谷美恵子の見た世界」と題した特別展を開催する予定です。

現在、準備で大忙しではありますが、どれも重要なイベントですので全力投球しています。お一人でも多くの方にお声かけいただき、会場にいらしてくださいれば幸いです。それでは、今後ともよろしく願います。

歴史館来館者予定(10月～)

ゆいニュース発行時点で案内ボランティアに対応依頼が来ている団体です。

10月12日(土)	人数未定	10:00～歴史館	11:00～歴史回廊見学
10月22日(火)	40名	13:30～歴史館	14:30～歴史回廊見学
10月23日(水)	50名	9:00～歴史館	10:45～歴史回廊見学
	人数未定	13:00～歴史館	14:00～園内見学
	20名	15:00～歴史館	16:00～歴史回廊見学
10月26日(土)	人数未定	13:00～歴史館	14:00～歴史回廊見学
10月29日(火)	30名	13:00～歴史館	14:00～歴史回廊見学
	45名	15:30～歴史館	
10月31日(木)	30名	14:00～歴史館	15:00～歴史回廊見学

案内ボランティアを始めたい方、興味はあっても難しそう…とためらっておられる方、他のボランティアの方の案内を見学していただくことも可能です。ご相談ください。

※予定は追加変更の可能性あります。詳しくは、ゆいの会ボランティアメーリングリストにて。

登録はコチラから→ hvlt-owner@yahoogroups.jp

～年会費納入のお願い～

ゆいの会の活動は、会員からの年会費(年間2,000円)と、協力者の方からの寄付金によって支えられています。

<振込先>

◆ゆうちょ銀行からの振込は
記号 15490/番号 33536171

◆他の金融機関からの振込は
金融機関コード

9900/店番 548/預金種目 普通
店 名 五四八(ゴヨンハチ)店
口座番号 3353617

※振込手数料は各自で負担下さい。

会員の皆様のご協力をお願いいたします。

編集後記

さる9月17日付け山陽新聞では「支援、啓発幅広く10年」とのタイトルでゆいの会の10年間の活動を紹介した記事が社会面に掲載されました。この10年間、入所者の支援、ハンセン病問題の啓発と、ゆいの会はその時々で求められたことに何とか対応して参りました。一方で、利用者の皆さんの高齢化が進み、療養所の外での活動に困難が生じています。また、ボランティアの担い手の確保も課題のひとつです。こうした状況の下で、ひとりひとりのボランティアとして出来ることは何なのか。今、ゆいの会の活動の原点が問われています。

(編集長則武透)



今後の企画案内

「ゆいの会」では、現在、「畑耕し隊」と称して愛生園土地をお借りして野菜作りを行っています。今年3月から畑を耕作し、四方に鹿よけネットを張りめぐらせ、手始めにジャガイモ作りを始めました。その後、出井畑耕し隊長が毎朝6時に現地に向いて新しい野菜作りに挑戦していましたが、鹿を想定して四方にしかネットを張っていないため、その盲点をつかれて上空からカラスの襲撃を受け、スイカ、キュウリ、ゴーヤに作物被害が発生しました。続いて8月に入り、鹿がネットを破って畑に侵入し、出井隊長が丹精込めて育てていたサツマイモの葉を食い荒らすという被害が発生しました。ネットの張り替え、野菜作付けのやり直しなどが必要となっておりますので、「畑耕し隊」ボランティア募集に際しては、皆様、現地に畑作業、ネット張り作業にご協力下さい。畑の収穫物により、本年11月2日、愛生園で「芋煮会」を予定しておりますので、何とかそれに間に合わせたいと考えています。また、12月には恒例の「忘年会」を行いますので、多数ご参加下さい。

(事務局長 山本勝敏)

◇芋煮会のお知らせ

昨年に引き続き、入所者のみなさんと共に秋の収穫を楽しむ企画です。

今年は、カラスの襲撃などのハプニングと戦った畑耕し隊出井隊長を中心にゆいの会のメンバーが長島で丹精込めて育てた野菜も具材となる予定です。

日時 平成25年11月2日(土)

午前10時集合

場所 長島愛生園内の旧福祉会館